

様式 3

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部 ・学科等 の名称	専任教員数								非常 勤教 員	専任教員 一人あた りの在籍 学生数	備考
	教授	准教 授	講師	助教	計	基準 数	うち 理学 療法 士又 は作 業療 法士 数	助手			
作業療法 学科(昼)	人	人	人	人	人	6人	7人	人	20人	17人	
作業療法 学科(夜)	人	人	人	人	人	6人	6人	人	21人	12人	
計	人	人	人	人	人	12人	13人	人	41人	—	

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授で きる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容(講義)を専任教員か、専任教員と同等以上の 知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容(講義)を専任教員か、専任教員と同等以 上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容(講義)を専任教員か、専任教員と同等以 上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
○	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】 養成施設指導ガイドラインとの連動状況 （昼）

分野	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当コマ数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼任)
基礎 分野	科学的思考の 基盤 人間と生活	統計学	12	手塚 雅之	専任
		情報科学	15	大倉 久美子	専任
		心理学	15	島津 直実	兼任
		哲学	12	井上 環	兼任
		教育学	12	井上 環	兼任
		英語	15	黒木 豊域	兼任
		保健体育	15	小平 健太郎	兼任
		社会学	12	石川 秀志	兼任
		人間関係論	15	深瀬 勝久	専任
専門 基礎 分野	人体の構造と 機能及び心身 の発達	解剖学Ⅰ	15	肥後 心平	兼任
		解剖学Ⅱ	15	澤井 信彦	兼任
		解剖学Ⅲ	15	春原 正隆	兼任
		生理学Ⅰ	15	黒澤 美枝子	兼任

専門 基礎 分野	人体の構造と 機能及び心身 の発達	生理学Ⅱ	15	黒澤 美枝子	兼任
		生理学実習	15	坪井 美行	兼任
		機能解剖学Ⅰ	15	福澤 阿弾	兼任
		機能解剖学Ⅱ	15	福澤 阿弾	兼任
		機能解剖学Ⅲ	15	阿部 英人	専任
		運動学Ⅰ	15	栗原 実里	専任
		運動学Ⅱ	15	栗原 実里	専任
		運動学実習	15	栗原 実里	専任
		人間発達学	15	石川 清	兼任
		臨床心理学	15	島津 直実	兼任
	疾病と障害の 成り立ち及び 回復過程の促 進	病理学概論	8	ブルカット・アルミラ	兼任
		内科学・老年学Ⅰ	15	佐久間 肇	兼任
		内科学・老年学Ⅱ	15	佐久間 肇	兼任
		整形外科学Ⅰ	15	植松 卓哉	兼任
		整形外科学Ⅱ	15	植松 卓哉	兼任
		神経内科学Ⅰ	15	加藤 陽久	兼任
		神経内科学Ⅱ	15	加藤 陽久	兼任
		小児科学	8	右田 真	兼任
		精神医学	15	埜崎 都代子	兼任
		保健医療福祉 とリハビリテ ーションの理 念	リハビリテーション医学概論Ⅰ	15	草野 修輔
リハビリテーション医学概論Ⅱ	15		石川 秀志	兼任	
専門 分野	基礎作業療法 学	作業療法概論	15	大倉 久美子	専任
		基礎作業学	12	大倉 久美子	専任
		基礎作業学演習	15	栗原 実里	専任
専門		作業療法研究法	8	手塚 雅之	専任

分野	基礎作業療法学	作業療法特講	12	柴田 美雅	専任
		体験実習	23	深瀬 勝久	専任
		地域実習セミナー	15	阿部 英人	専任
	作業療法管理学	作業療法管理学	15	五十嵐 千代子	専任
	作業療法評価学	身体障害評価学Ⅰ	15	福澤 阿弾	兼任
		身体障害評価学Ⅱ	24	五十嵐 千代子	専任
		身体障害評価学演習	23	伴野 麻矢	専任
		精神障害評価学	15	手塚 雅之	専任
		発達障害評価学	15	大西 麓子	兼任
		作業療法基礎演習Ⅰ	15	大倉 久美子	兼任
		作業療法基礎演習Ⅱ	30	大西 麓子	兼任
		作業療法総合演習Ⅰ	30	阿部 英人	専任
		作業療法臨床セミナーⅠ	30	柴田 美雅	専任
	作業療法治療学	身体障害治療学Ⅰ	15	阿部 英人	専任
		身体障害治療学Ⅱ	15	柴田 美雅	専任
		身体障害治療学Ⅲ	15	仲木 右京	専任
		身体障害治療学演習	23	伴野 麻矢	専任
		精神障害治療学Ⅰ	15	山下 高介	専任
		精神障害治療学Ⅱ	15	山下 高介	専任
		精神障害治療学演習	23	手塚 雅之	専任
		発達障害治療学Ⅰ	15	大西 麓子	兼任
		発達障害治療学Ⅱ	15	大西 麓子	兼任
		発達障害治療学演習	15	大西 麓子	兼任
		老年期障害治療学	30	阿部 英人	専任

専門分野	作業療法治療学	日常生活活動学	15	柴田 美雅	専任
		日常生活活動学演習	23	五十嵐 千代子	専任
		高次脳機能障害治療学	15	伴野 麻矢	専任
		職業関連活動学	15	柴田 美雅	専任
		作業療法特論	180	専任	専任
		作業療法総合演習Ⅱ	30	専任	専任
		作業療法臨床セミナーⅡ	30	五十嵐 千代子	専任
	地域作業療法学	地域作業療法学Ⅰ	15	柴田 美雅	専任
		地域作業療法学Ⅱ	15	栗原 実里	専任
	臨床実習	地域実習			
		臨床実習Ⅰ			
		臨床実習Ⅱ			

【自己評価 2-1】 養成施設指導ガイドラインとの連動状況 (夜)

分野	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当コマ数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼任)
基礎分野	科学的思考の 基盤 人間と生活	統計学	12	河邊 宗知	兼任
		情報科学	15	山田 慶	専任
		心理学	15	小野寺 哲夫	兼任
		哲学	12	竹村 香織	兼任
		教育学	12	井上 環	兼任
		英語	15	伊勢村 定雄	兼任

		保健体育	15	小平 健太郎	兼任
		社会学	12	千田 佳遠里	兼任
		人間関係論	15	川村 啓輔	専任
専門 基礎 分野	人体の構造と 機能及び心身 の発達	解剖学Ⅰ	15	五十嵐 広明	兼任
		解剖学Ⅱ	15	五十嵐 広明	兼任
		解剖学Ⅲ	15	五十嵐 広明	兼任
		生理学Ⅰ	15	小平 健太郎	兼任
		生理学Ⅱ	15	越智 広樹	兼任
		生理学実習	15	渡邊 信博	兼任
		機能解剖学Ⅰ	12	小笹 久志	専任
		機能解剖学Ⅱ	12	山田 慶	専任
		運動学Ⅰ	15	田中 克一	専任
		運動学Ⅱ	15	山田 慶	専任
		運動学実習	15	山田 慶	専任
		人間発達学	15	大山 敬子	兼任
	疾病と障害の 成り立ち及び 回復過程の促 進	臨床心理学	15	小野寺 哲夫	兼任
		病理学概論	8	何 聰	兼任
		内科学・老年学Ⅰ	15	本間 博	兼任
		内科学・老年学Ⅱ	15	本間 博	兼任
		整形外科学Ⅰ	15	武内 俊次	兼任
		整形外科学Ⅱ	15	武内 俊次	兼任
		神経内科学Ⅰ	15	大供 孝	兼任
		神経内科学Ⅱ	15	大供 孝	兼任
小児科学		8	江添 隆範	兼任	

		精神医学	15	河邊 宗知	兼任
	保健医療福祉 とリハビリテ ーションの理 念	リハビリテーション医学概論Ⅰ	15	草野 修輔	専任
		リハビリテーション医学概論Ⅱ	15	石川 秀志	兼任
専門 分野 専門 分野	基礎作業療法 学	作業療法概論	15	深瀬 勝久	専任
		基礎作業学	12	山下 高介	専任
		基礎作業学演習	15	松生 容一	専任
		作業療法研究法	8	河邊 宗知	兼任
		作業療法特講	12	田中 克一	専任
		地域実習セミナー	15	松生 容一	専任
	作業療法管理 学	作業療法管理学	15	深瀬 勝久	専任
	作業療法評価 学	身体障害評価学Ⅰ	15	田中 克一	専任
		身体障害評価学Ⅱ	24	松生 容一	専任
		身体障害評価学演習	23	小笹 久志	専任
		精神障害評価学	15	山下 高介	専任
		発達障害評価学	15	大西 麓子	兼任
		作業療法基礎演習	15	深瀬 勝久	専任
		作業療法総合演習Ⅰ	30	山田 慶	専任
		作業療法臨床セミナーⅠ	30	山田 慶	専任
	作業療法治療 学	身体障害治療学Ⅰ	15	井口 佳晴	兼任
		身体障害治療学Ⅱ	15	小笹 久志	専任
		身体障害治療学Ⅲ	15	仲木 右京	兼任
		身体障害治療学演習	23	松生 容一	専任
		精神障害治療学Ⅰ	15	山下 高介	専任
		精神障害治療学Ⅱ	15	山下 高介	専任

		精神障害治療学演習	23	深瀬 勝久	専任
		発達障害治療学Ⅰ	15	大西 麓子	兼任
		発達障害治療学Ⅱ	15	大西 麓子	兼任
		発達障害治療学演習	23	大西 麓子	兼任
専門 分野	作業療法治療 学	老年期障害治療学	30	松生 容一	専任
		日常生活活動学	15	田中 克一	専任
		日常生活活動学演習	23	山田 慶	専任
		高次脳機能障害治療学	15	伴野 麻矢	専任
		職業関連活動学	15	田中 克一	専任
		作業療法特論	180	山下 高介	専任
		作業療法総合演習Ⅱ	30	山田 慶	専任
		作業療法臨床セミナーⅡ	30	山下 高介	専任
	地域作業療法 学	地域作業療法学Ⅰ	15	田中 克一	専任
		地域作業療法学Ⅱ	15	松生 容一	専任
	臨床実習	地域実習			
		臨床実習Ⅰ			
		臨床実習Ⅱ			

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
○	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
解剖見学実習	2年後期	解剖学	12月

【自己評価 3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	(自己点検) 学内運営委員会 (評価組織) 学校関係者評価委員会
委員名 (委員長)	(学内運営委員会) 学校長 (学校関係者評価委員会) 委員に委嘱
組織の開催頻度	(学内運営委員会) 月 1 回 (学校関係者評価委員会) 年に 2 回
組織の取り組み内容	私立専門学校等評価研究機構で定める専門学校等評価基準に準じて
	自己評価を行い、報告書を取りまとめる。(6 月末まで)
自己点検・評価結果の公表	H P で公表 (URL : <a href="https://www.nitiriha.com">https://www.nitiriha.com</a> )

【自己評価 4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
○	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	授業力向上委員会
	委員構成等	学校法人 敬心学園グループ全5校の教職員による編成
	改善の仕組みの実際	検討中

【自己評価 4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

自己評価報告書を作成した後、学校関係者評価委員会を開催し、第三者的な観点で委員に学校運営に関する指導、助言をして頂く。

第三者評価については、本年度、一般社団法人リハビリテーション教育評価機構の審査を受審予定。